

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 50

10月1日は“衣替え”の日なのです…



「10月1日は衣替えの日です」というニュースがテレビから流れてなぜか“衣替え”という言葉が新鮮に感じてしまいました。普段から使っている言葉のはずですがここ数年“クールビズ ウォームビズ”という言葉に置き換わり報道ではあまり聞かなくなっていたような気がします。筆者だけの話かも知れませんが…ともあれ10月1日は衣替えの日なのです。学校や役所の制服を変更することなのですが、そもそも制服を取り入れているところが減っていますのであまり実感のある行事ではなくなっているのかもしれませんがそれでも電車に乗ると学生が一斉に冬物に替わった光景を目にすることがあり、季節感を感じるにはいい慣わしだと思います。



本来は6月1日から夏服に10月1日からは冬服に切り替えることを衣替えと呼んでいるのですが、現在では空調環境も整ったことや2011年の東日本大震災以降電力不足になったこともあり、クールビズ期間がここ数年5月1日～9月30日までとなっているため、6月に衣替えという言葉が使われにくくなってしまいました。といいながらも10月1日の切り替えは同じなのでこの時期には“衣替え”というアナウンスがされたのだと思います。このまま続けば5月1日と10月1日を衣替えの日と呼ぶようになるのかもしれませんが。

衣替えをするということは、冬物を引っ張り出し夏物を収納するという作業になります。誰もが経験することですがちゃんと仕舞っていたはずなのに、虫食いや黄ばみ、カビなどの発生が起こってしまいます。原因はといいますと「ちゃんと仕舞ったはず」が「ちゃんと仕舞っていなかった」ということが多いのです。ということで今回は、夏物を収納するときの注意点ということをテーマにしたいと思います。お気に入りの服を大事にするということは大切なことなので、基本的なことだけでも覚えておきましょう。

衣類を仕舞うまえのお手入れと対策

まずちゃんと仕舞うには“ちゃんと汚れを落とす”ことから始めます。汚れを落とすのは家庭で水洗い洗濯かドライクリーニングに出すかということになるのですが、水洗いは水性系の汚れが落ち、ドライは油性系の汚れを落とすということで使い分けられています。夏は暑いので汗ジミが付きやすいですが、汗ジミは水性なので水洗いでは落ちますがドライクリーニングでは落としにくい汚れになります。ドライクリーニングに出せば水汚れも油汚れもキレイになるというのは勘違いなのです。もちろんクリーニング屋さんが持ち



込まれた洗濯物を判断して水洗いをしてきていることもあります。ドライだけをして戻ってくると時間の経過で見えなかった汗ジミが黄ばんでくることがあります。衣替えで取り出して黄ばみがある場合は、水系の汚れが落としきれなかったのが原因で発生することが多いのです。保管による原因もありますが、黄ばみに関しては汚れ落としが不十分ということが主な原因になります。

つぎに片付けるときは“ちゃんと乾かしてから仕舞う”ということも必要なこととなります。家庭洗濯で生乾きの洗濯物は嫌な臭いが残っているのを経験したことがあると思いますが、ちゃんと乾燥していないと雑菌が繁殖して異臭の原因になることがありますし、またカビ菌も湿気を好みますのでカビ発生の原因になることがあります。ドライクリーニングも戻って来たときには充分乾燥していると思ってしまうのですが最後の仕上げで蒸気プレスを掛けてから、汚れよけのフィルムカバーをつけ密封した形で受け取りますが、乾燥が不十分だとフィルムの中は湿気が残った状態になっています。これも異臭やカビ発生の原因となりますのでクリーニング屋さんから戻った商品も袋からだして充分乾燥させてから収納するというのが大事なことになります。仕上がりがきちんとしているので袋から取り出したくない気持ちになりますが乾燥させることを優先してください。

ちゃんと汚れを落として、ちゃんと乾燥させてから収納する、ということは当たり前のことなのですが、これがなかなかできていないというのが実状なのです。これができればあとは防虫対策をして収納すれば保管中のトラブルはほぼなくなると思っていますが、最近の“衣料害虫”とよばれる繊維を食べる虫も手ごわくなっているので虫除け対策も大事な作業になります。手ごわいといったのは合成繊維が出始めたころは再生繊維や半合成繊維のようにセルロースなどの天然繊維も原料としている化学繊維はともかくとしてポリエステルやナイロンなどの石油や石炭から造られる合成繊維は虫食いがないと考えられていたものが合織の虫食いのトラブルも多く発生しているのです。

遺伝子存続本能の進化で合織を食べる虫ができてきたのか判りませんが合織でも食べ残しのシミや加工剤の油分が残っているものは衣料害虫が食べることは確認されていますので綿や毛はもちろんですが合織ものの製品も虫除け対策が必要となります。防虫剤は空気より重いので製品より上に置くのが基本となります。さらに空気の動きがないと防虫剤が隅々(すみずみ)まで行き渡りませんのでハンガー収納するときはあまりぎゅーぎゅー詰めをすると効果が出にくいこととなりますので注意が必要です。防虫対策だけを考えれば密閉式の収納箱で保管するのがよい方法になりますが、シワの発生や製品の型くずれの原因にもなりますのでシルエットが大事な服は吊るしハンガー保管ということになります。



お手入れ・対策はしっかりと・・・

いずれにせよ、汚れ落とし、乾燥、防虫対策をしっかりとっておけば衣替えで保管中の商品もトラブルなく守れるということになります。今回の思いつきラボはよくある「生活の知恵 ワンポイントアドバイス」みたいになってしまいましたが、繊維業界やアパレル業界に所属している方たちには必要な情報なので知識として持ち合わせておきましょう。と言いながら筆者もいまだに、保管中の黄ばみ虫食いは出してしまっています・・・反省!!

原稿担当：竹中 直(チヨク)

